

研究評価委員会におけるコメント

第36回研究評価委員会（平成25年11月6日開催）に諮り、以下のコメントを評価報告書へ附記することで確定した。

1. 安全・低コスト大規模蓄電システム技術開発（中間評価）

- ◆ 今後、蓄電池が電力システム全体の中で、どのような目的及び規模で導入され、どのように運用されていくのかについて評価していただきたい。

2. 革新型蓄電池先端科学基礎研究事業（中間評価）

- ◆ 蓄電池関連のプロジェクト間の交流、特に研究者間の交流を行い、その知見を共有していただきたい。
- ◆ プロジェクトで構築した解析プラットフォームを、プロジェクト終了後において日本のデバイスや材料の競争力強化のためにどのように活用し、発展させていくのかの視点は重要である。

3. 立体構造新機能集積回路（ドリームチップ）技術開発（事後評価）

- ◆ 出口を明快にしてプロジェクトを進めていくことが重要であった。実用化・事業化への道筋を明確にするためには、成果の中で何か良いアプリケーションがあれば、そこに集中していくという戦略が必要である。

4. 異分野融合型次世代デバイス製造技術開発プロジェクト」(BEANS)（事後評価）

- ◆ 大学等における基礎研究は非常に良いが、それと実用化を結びつけるところが日本は弱い。アメリカの場合はベンチャービジネスがそこを補っている。実用化に結びつけるためには、基礎研究と実用化を結びつけるユーザーとの関係体制は重要であるけれども、もう一步踏み込んでユーザーとの議論をしていただきたい。